集落営農組織の後継者育成に向けて

■　集落営農組織モデル　油井営農支援組合　■

（西讃農業改良普及センター　○岩井正直　坂口幸雄　池田晃一郎　農産経営担当）

●対象の概要

西讃地域の集落営農組織は、令和２年度現在 34 組織あり、そのうち法人が４組織、任意組織が 30 組織である。

市別には、観音寺市で 15 組織、三豊市で 19 組織であり、法人はそれぞれ２組織となっている（表－１）。

表－１　令和２年度の市別集落営農組織数

市	集落営農組織数	うち任意組織数	うち法人数
観音寺市	15	13	2
三豊市	19	17	2
計	34	30	4

集落営農の組織形態は、地域農業を守るための農地の維持、営農の継続を重視した活動を主とする作業受託型や農業機械共同利用型の組織が中心である。

令和元年度調査における構成員の平均年齢は、全体で 66 歳、法人 68 歳、任意組織 65 歳であった。

また、後継者の有無や５年後の経営規模については、後継者が「有」の組織が半数、経営規模は現状維持を望む組織が大半であった（表－２）。

表－２　後継者の有無と５年後の経営規模

項目	後継者の有無			５年後の経営規模			
	有	無	不明	維持	拡大	縮小等	不明
組織数	16	15	3	23	3	5	3

その後の令和２年度調査では、オペレーターとなる構成員の高齢化に伴い、将来の農地管理に不安が生じており、新たに親族関係者の参入の動きが見られるようになった。

●課題を取り上げた理由

令和２年度に新たに後継者の参入を計画した組織は、法人１組織、任意組織２組織であった。

これら組織の後継者参入のきっかけは、表－３のとおりで、①と②については年度当初から参入を開始し、③は組織内の後継者育成に対する活動をすでに計画していた。

表－３　後継者参入のきっかけ

組織	きっかけ
①法人Ａ	麦を中心とした作業受託面積の拡大や利用権設定ほ場の増加に伴い、オペレーターを増員。
②任意組織Ａ	若い構成員が多い作業受託組織で、若い世代の新規参入。
③任意組織Ｂ	オペレーターの高齢化に伴い、機械の操作や農地の管理作業等が厳しくなってきた。

そこで③の組織で若い世代の参入の必要性が急務と感じ、研修会の開催等を模索していた観音寺市の「油井営農支援組合（以下組合）」に対して、支援することとし、管内の組織活動のモデルと位置づけ、稲作の機械作業や栽培管理に対する支援を行った。

組合は、平成 14 年に農地の大区画化や農道拡張に関するほ場整備と、ほ場整備後の営農方法について検討を進め、米麦作の合理化を図る目的として設立された組織である。ほ場整備は令和元年に完了し、作付面積は水稲が約 11ha、麦が約７ha となっている。

構成員の年齢構成は、17 名中７名が 70 歳代、４名が 80 歳以上と農作業従事の主体となる年代が高齢となっており、50 歳未満は２名で全体の 20%にも満たなかった（表－４）。

表－４　年齢構成（組合員 17 名）

年齢構成	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
人数（人）	2	0	1	3	7	4
構成比（%）	11.8	0.0	5.9	17.6	41.2	23.5

このため、５年後、10 年後に主力となるオペレーターが不足し、基盤整備も完了した農地の行く末が心配されることから、若い世代に繋ぐ「きっかけづくり」が必要であった。

●普及活動の経過

組合への支援として、これまで県単独補助事業

によるトラクターや田植機などの機械整備や米麦の栽培指導を中心に行ってきた。

加えて令和２年度は、後継者育成を課題として県単独補助事業「みんなで守る地域農業支援事業」を活用したコンバインの導入をきっかけに、後継者育成の取組「リクルート活動」を提案して説明会を開催した。

リクルート活動の内容としては、以下①の後継者候補のリスト化から始め、②～⑤の機械作業等の実践研修を行う計画作成について支援した。また、各々の研修会において円滑かつ効果的に実施できるように助言を行った。

①後継者候補のリスト作成
②トラクター操作研修
③田植機操作研修
④コンバイン操作研修
⑤パソコン会計処理研修

さらに、コンバインの導入時には、後継者育成を目的に農産経営担当と連携し、水稲病害虫管理情報や適期収穫の講習も実施した。

●普及活動の成果

１）後継者候補の選定・組合加入

後継者は、11 名が候補に挙がり、20 歳代から 50 歳代までで、平均年齢は約 39 歳であった。そのうち後継者候補リスト掲載は８名で、組合の平均年齢は９歳若返る約 60 歳となった。

組合への加入は、各種研修会のリクルート活動を経て８名を規約上「準組合員」と扱えるよう変更し、12 月総会で承認を得て受け入れる体制を整えることができた。

２）各種研修会と参加状況（表－５参照）

(1) トラクター（代掻き作業）や田植機操作の研修は、コロナ禍であったことから個別参加の対応となった。

(2) ８月のコンバイン操作研修は、コロナ禍が多少和らぎ、営農基礎講座と収穫実践研修を兼ねたことで、後継者全員の参加となった。当日は、アンケート調査を実施し、栽培管理についての講習を希望する回答も得られた。

(3) パソコンによる会計処理研修は、１名を対象に実施し、総会での報告も実践した。

各研修では、機械作業への関心が高い後継者が集まったことから、操作ミスはあったものの機械操作の技術習得に意欲的であった。

また、組合員と後継者双方の地域農業を守る意識は高まった。

表－５　リクルート活動内容

月．日	活動項目	内容	後継者参加数
5. 15	事業説明会	集落営農組織の現状と課題、取組事業の進め方	－
6. 8	後継者候補リスト作成	後継者候補のリスト作成（11名）	－
6. 17	トラクター操作研修	田植前代掻きやハローによる圃場の均平作業の習得	1
6. 20 6. 23	田植機操作研修	田植機操作や苗の取り扱い、側条施肥機使用方法	6
8. 30	コンバイン操作研修	安全操作、点検整備、清掃、水稲収穫適期の判定	8
12. 14 12. 18	会計処理研修	パソコン収支計算処理 麦作収益計算	1
12. 19	総会	活動状況報告、規約改正で後継者８名の準組合員承認	1
7. 3	病害虫管理情報提供	ヒメトビウンカ、カメムシ、紋枯病の防除	回覧
8. 24	病害虫管理情報提供	トビイロウンカの防除	回覧
8. 17	コシヒカリ適期収穫情報	出穂期以降の積算温度や黄変籾率からの適期収穫	回覧
11月～5月	麦栽培管理情報提供	播種前後の管理、雑草管理、早期追肥、土入れ・踏圧、赤かび防除、適期収穫	回覧

コンバイン操作研修（8月30日）

●今後の普及活動の課題

後継者育成の取組みは、始まったばかりで、機械導入に合わせた実演会等により、次期オペレーターの育成や新規構成員の加入を進める組織が出てきている。後継者が各種機械に関わる機会は限られており、毎年同様とはいかないが、組織で次世代に繋げたい想いがある。技術継承が完了するまで、関係機関と連携し、事業活用等の有効な取組の提案を行いながら、引き続き集落営農組織の活動強化を支援する。